

(平成 26 年 8 月試験研究業務月報)

試験研究課題：飼料用米等を活用した京都版地域資源循環ビジネスモデルの提案

研 究

お米育ちの牛肉をシェフと味わい、意見交換を行う

当センターでは、京都大学とともに和牛に飼料用米を与えて牛肉を生産することで、地域の水田を守るビジネスモデルの策定を目指しています。

8月8日に、京都市内のレストランシェフ 23 名を招いて飼料用米を与えた牛肉の試食会を行いました。シェフから、「脂の味があっさりしている」、「お米で牛を育てることはすばらしい」などの意見をいただきました。

今後、飼料用米生産からレストランにおける「お米で育った牛」を使った料理のメニュー化までの一連を経営として持続させる提案を目指し、水田を荒廃させない取組の意義について、消費者に理解及び注文していただくための伝え方や出荷規模などを関係者で検討していきます。



お米育ちの牛肉を味わいながらシェフに意見を伺う（あじわい館(市内)）

畜産センター